



いがらし **五十嵐** みつひろ **光博** さん

主食用米のほか、飼料用米(ふくひびき)を栽培し、令和2年度飼料用米多少日本一単収量の部で日本農業新聞賞を受賞しました



経営のきっかけ・こだわり・思いを聞かせてください。

家業であった農地や栽培技術を受け継ぎ、現在は主食用米中心の経営を行っています。

主食用米は、顧客のニーズにあわせ、つや姫や雪若丸など5品種を作付け、化学肥料や農薬を削減し、環境に配慮した特別栽培米として販売しており、お客様の中にはインターネットを通じて毎年購入いただくリピーターもいて、自信を持ってお届けしたお米を喜んで購入していただけるのは大変嬉しく感じています。

飼料用米は、戦略作物助成の収量に応じた加算措置に魅力があることや、大豆との輪作により施肥量の低減が図られることから、平成29年から取り組んでいます。

実需者である(株)野川ファームから肥料体系・除草体系など指導や情報をいただきながら、飼料用米の収量を多く確保出来た時は、大変嬉しいものです。



※五十嵐さんは令和2年度「飼料用米多収日本一」日本農業新聞・会長賞受賞(単収量の部)を受賞しました。
詳しくは、下記リンクをご参照ください。
東北農政局ホームページ
「令和2年度飼料用米多収日本一コンテスト受賞者の取組概要(PDFファイル)」五十嵐さんは8ページに掲載
https://www.maff.go.jp/tohoku/seisan/suitou/attach/pdf/siryoumai_contest-28.pdf

農業の魅力についてお聞かせください。

営農を初めて27年目になりますが、農業の一番の魅力は、「自分の判断で経営方針を自由に決められること」だと思っています。

自身の営農の現状と目標利益とのバランスを見比べながら、今後の方向性の決定や新しいことにも挑戦できます。

それと、仕事を自分の裁量で決められることも魅力の一つですね。



特別栽培米の田植え
(写真提供: 五十嵐光博さん)

今後の経営、目標や夢、将来展望をお聞かせください。

これまで全ての農作業はほぼ一人でやってきましたが、現在関東圏で働いている息子が近々Uターン就農する予定なので、今後は、新たにドローンを活用し、作業受託を増やしていければと考えています。

息子と二人で楽しみながら地域農業を守っていければいいですね。



黄金色に波打つ稲穂の海
(写真提供: 五十嵐光博さん)